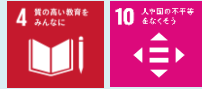


重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【安心して子育てができ、子どもたちがいきいきと学べるまちづくり】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

身近な地域で安心して子どもを産み育てられるとともに、子どもたちが明るく健やかに成長している状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

(子育て層への支援)

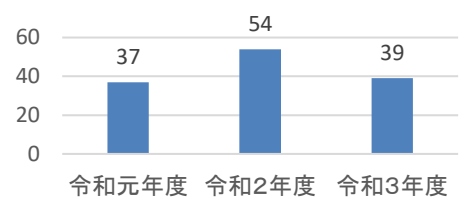
・「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人がいない。」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人がいない。」と回答した保護者の割合が大阪市平均と比較して高い。

平成28年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査

	浪速区	大阪市
心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人がいない	10.2%	6.4%
子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人がいない	14.2%	8.9%

・浪速区における児童虐待相談件数はほぼ横ばい状態が続いている

浪速区における児童虐待相談件数



(子どもの学びと健やかな成長の支援)

・「全国学力・学習状況調査」の結果では、大阪市の小中学校ともに平均正答率が全国平均に比べて低く、浪速区においても同様の状況にある。

「全国学力・学習状況調査 平均正答率と経年比較グラフ」

	R1			R3		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	58	63.8	0.91	63	64.7	0.97
小学校 算数	65	66.6	0.98	69	70.2	0.98
中学校 国語	70	72.8	0.96	61	64.6	0.94
中学校 数学	57	59.8	0.95	55	57.2	0.96

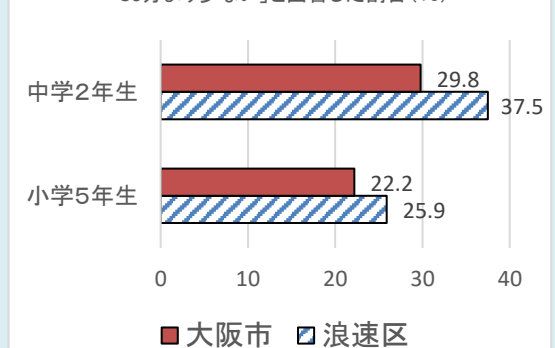
※全国平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表している。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていない。

・浪速区では、授業以外の学習時間について「まったくしない」「30分より少ない」と回答した児童生徒が大阪市平均と比較して多い状況にある。

「平成28年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査」

授業以外の学習時間について「まったくしない」「30分より少ない」と回答した割合(%)



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

(子育て層への支援)

・浪速区では転出入率が高く、外国人住民やひとり親世帯が多いことから、地域とのつながりが希薄となり、身近に知り合いがおらず、様々な困りごとを相談できる人がいないなど、孤立感や育児不安に陥りやすい環境にあると考えられる。

・新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や経済的困窮世帯の増加など、虐待につながる要因が増加していると考えられる。

(子どもの学びと健やかな成長の支援)

・世帯の生活困窮度が高くなるにつれて、子どもの勉強時間や読書時間が短く、遅刻をしない割合や学習理解度が低くなるのが分かっているが、浪速区では、生活保護における保護率が高水準であるなど、他区と比較して経済的に厳しい家庭が多い状況にある。

・浪速区では外国につながる住民が多く在住していることから、日本語の指導が必要な児童生徒の人数も大阪市平均と比較して多い状況にある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

（子育て層への支援）

- ・支援を必要としている世帯を早期に発見し、的確な支援へとつなげていく必要がある。
- ・相談しやすい環境と、多様な相談内容に応えられる体制を整備する必要がある。
- ・忙しい子育て世帯が、子育てに関する情報を手軽にかつ的確に得られるようにする。

（子どもの学びと健やかな成長の支援）

- ・保護者・区民や学校園の意見を把握し、区の実情に応じた教育施策・学校支援に取り組む必要がある。
- ・基礎学力・体力が大阪市平均より低くなっており、困難な状況にある子どもたちの健やかな成長を支える学校教育環境の充実支援に取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 3-1 【子育て層への支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・身近な地域で、安心して子どもを「産み」育て、将来も住み続けたいと思っ ている状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末まで重大な児童虐待0（ゼロ）を維持 ・令和7年度末までに、子育て層に対するアンケート調査で、「子育てに ついて気軽に相談できる人や場所がある」と回答した人の割合：100% （令和3(2021)年度アンケート結果：97.2%）		・多様な相談ニーズに対応できる体制と、相談しやすい環境整備に取り 組む。 ・困りごとを抱えたまま誰にも相談できずに孤立する子育て世帯を早期に 支援へつなげるため、関係機関との連携を強化し、積極的なアウトリーチ に取り組む。 ・子育て世帯が気軽につどい、子ども同士や保護者同士がつながりあえ る交流の場の充実に取り組む。 ・育児不安や困りごと等の早期解消に向け、子育て情報の発信に取り組 むとともに、多言語による情報発信に取り組む。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に 対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
			A：順調 B：順調でない	
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 3-1-1 【困難な状況にある養育者・子どもへの支援の充実】

		2決算額	14,922千円	3予算額	15,037千円	4予算額	15,915千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・未就園の4歳児がいる区内全世帯に対して訪問面談等を実施（年1 回） ・就学前児童を抱える世帯へのアウトリーチを充実させ、支援につなげる ため、区内保育施設等への巡回訪問を実施（月1回） ・福祉的課題を抱える児童生徒を学校の気づきから発見し、支援を行う ため、区内全小中学校とスクリーニング会議を実施（全小中学校で月1 回以上） ＊「アウトリーチ」：用語解説 ＊「スクリーニング会議」：用語解説		福祉的課題を抱える子どもに対して、区役所が支援したケース数 ・就学前児童の支援ケース数：40件以上 ・児童・生徒の支援ケース数：90件以上 【撤退・再構築基準】 ・上記指標が就学前児童の支援ケース数32件未満、児童・生徒の支援 ケース数72件未満の場合は事業を再構築する。				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組 3-1-2 【子育て世帯への充実した支援体制の整備】

		2 決算額	243千円	3 予算額	349千円	4 予算額	340千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	・「子ども・子育てプラザ」や「子育てつどいのひろば」などの拠点施設において専門職員による出張相談会を開催（年12回） ・地域の「子育てサロン」の活性化に向けた各サロン運営者への研修・情報交換会を開催（年1回） ・外国語通訳派遣による子育て相談の実施（随時） ・区広報紙、ホームページ、SNS、LINEを活用した子育て支援情報の発信（随時） ・区広報紙での子育て情報特集記事の掲載（年1回） ・多言語版（英語・中国語・韓国語等）子育て応援マップの作成と出生・転入手続き等での配布（随時）			子育て支援拠点施設での利用者アンケートで、とても満足していると回答した人の割合：75%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記指標が56%未満の場合は事業を再構築する。			
計画	前年度までの実績			区役所庁舎内「子育てつどいのひろば」利用者アンケートで「とても満足している」と回答した人の割合			
				・令和3年度：76% ・令和2年度：72% ・令和元年度：新型コロナウイルス感染症の影響により利用者アンケート未実施			

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 3-2 【子どもの学びと健やかな成長の支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>			戦略（中期的な取組の方向性）			
	・全ての子どもたちが学力を身に付けながら明るく健やかに成長している状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末までに、区が、学校・地域の実情に応じた学校教育支援を行っていると感じている学校、学校協議会委員等の割合：90%以上 ・令和7年度末までに、「全国学力・学習状況調査」における1つ以上の教科において、平均正答率が大阪市平均を上回った学校の割合：50%以上			・保護者・区民等が参画する会議、教育行政連絡会などで意見を把握し、ニーズに応じた教育施策・学校支援に取り組む。 ・基礎学力・体力の向上に向け、子どもの学びを支える学校教育環境の充実支援に取り組む。			

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須			
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体			
						今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須		
			A：順調 B：順調でない					
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない						

具体的取組3-2-1 【分権型教育行政の推進】

		2決算額	- 円	3予算額	- 円	4予算額	- 円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> 区が、学校・地域の実情に応じた学校教育支援を行っていると感じている学校長の割合：80%以上 区が、学校・地域の実情に応じた学校教育支援を行っていると感じている学校協議会委員等の割合：80%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記指標がいずれも70%未満の場合は事業を再構築する。 					
	前年度までの実績	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育行政連絡会の開催（1回） 保護者・区民等の参画のための会議の開催（1回） 学校協議会傍聴（13回） 学校協議会委員研修（1回） 					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成</p> <p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自己評価	当年度の取組実績	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
		<p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成</p> <p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)</p>					

具体的取組3-2-2 【学校教育支援】

		2決算額	18,301千円	3予算額	19,835千円	4予算額	14,748千円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内小学3年生を対象としたアンケート調査で、授業以外の勉強時間について「まったくしない」「30分より少ない」と回答する割合：市平均以下 中学生を対象とした学習会参加者に対して行う「学習理解度を測るテスト」の結果が向上した生徒の割合：90%以上 日本語サポーター配置校へのアンケート調査で、支援の必要な児童生徒について、サポーターの配置により、日本語の言語能力が学齢相応へ到達したと感じる学校の割合：60%以上 各学校で設定する漢検の受検目標を達成できた学校の割合：83.3%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各指標目標の70%未満 					
	前年度までの実績	<p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内小学5年生を対象としたアンケート調査で、授業以外の勉強時間について「まったくしない」「30分より少ない」と回答する割合：28.3% 中学生を対象とした学習会参加者に対して行う「学習理解度を測るテスト」の結果が向上した生徒の割合：91.3% 日本語サポーター配置校へのアンケート調査で、支援の必要な児童生徒について、サポーターの配置により、日本語の学習言語能力が学齢相応へ到達したと感じる学校の割合：100% 各学校で設定する漢検の受検目標を達成できた学校の割合：33% <p>*「学習言語能力」：用語解説</p>					
		<p>*「日本語サポーター」：用語解説</p>					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	